

伊東市教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 令和6年4月25日（木曜日）午後2時～午後4時
- 2 場 所 伊東市役所高層棟5階中会議室
- 3 出席者 教育長 高橋 雄幸 委員 村上 恵宏
委員 遠山 泰範 委員 辻 恵
- 4 参 与 教育部長 浜野 義則 次長兼教育総務課長 杉山 宏生
教育指導課長 森田 まり 生涯学習課長 山下 匡弘
- 5 事務局 教育総務課課長補佐 二宮 悠 主査 藤原 真紀
- 6 会議の経過

高橋教育長：議事に入る前に、令和6年4月1日付け人事異動により、教育委員会に転入した職員の紹介を行う。

（事務局から報告）

高橋教育長：ただ今から伊東市教育委員会4月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

（事務局から出欠報告及び資料確認）

高橋教育長：それでは議事に入る。始めに教育長報告を行う。4月定例会教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

3月27日 中央区立宇佐美学園校長来庁、県教委高校教育課長来庁、
青少年指導者級別認定講座修了証授与式、

「こども110番の店」活動PR品寄贈(自動車整備振興会)

29日 退職者発令、退職校長感謝状贈呈式、保育園関係職員発令式
区長会懇談会

4月 1日 人事異動発令式、政策会議、小中学校新規採用教職員研修会、
2日 教育事業3団体事務局長来庁

- 3日 園長・校長会
- 4日 保育園園長会、こども民謡教室会長来庁
- 5日 北中学校入学式
- 8日 教職員組合東豆支部役員来庁
- 9日 (未来を拓くマネジメントディスカッション)課内打合せ
- 10日 静岡県市町教育長会
- 11日 課長会議(市民、健康福祉、企画、総務、議会)、医師会挨拶
- 12日 課長会議(建設、観光経済、上下水道、危機管理、教育)
- 13日 中央区立宇佐美学園入園式、杢太郎記念館記念講演会
- 14日 オール伊豆社会人ソフトボール大会開会式
- 15日 伊豆伊東高校校長来庁、能登半島被災地派遣者報告会
- 16日 静東地区教育長会
- 17日 女性連盟総会、市避難所運営訓練視察、伊東警察署長訪問、
歯科医師会長訪問
- 18日 教頭会
- 19日 生徒指導協議会、市懲戒審査委員会、
大村智博士講演会 DVD 寄贈(北里柴三郎博士顕彰委員会)
- 20日 新図書館再設計説明会(八幡野コミセン、福祉センター)
- 21日 新図書館再設計説明会(宇佐美コミセン)、第15回山頭火祭り
- 22日 県教育委員会訪問
- 24日 田方地区教科用図書連絡協議会、市就学援助認定委員会
- 25日 教育委員会定例会、政策会議、区長感謝状贈呈式

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：次に、各委員からの報告をお願いします。

委員：対島中学校、宇佐美小学校の入学式に出席させていただいた。対島中学校は、落ち着いた雰囲気の中、生徒の皆さんは、少し大きめの制服を着て、期待とドキドキ感がある様子で、すごく入学式らしい雰囲気があり、見ていてとても新鮮な気持ちになった。宇佐美小学校はまだ小学校の一年生ですから、とてもかわいらしく感じた。校長先生が小さな劇を取り入れながら子供たちにわかりやすく楽しく伝えていたのが、とても印象的だったことと、PTA会長さんが「先生方のチームワークがとてもすばらしくて、安心して子供を任せられる。」と挨拶していたのを聞いて、保護者も安心して学校生活がスタートできたのではないかと思った。

委員：宇佐美中学校、池小学校の入学式に出席させていただいた。宇佐美中学校は全部で57名の入学生で2クラスであった。この日は気温が低く、慣れない制服を着て緊張もあるせいか、途中で体調を崩す生徒が何名かいた。それでも在校生が温かく迎えてくれて式は無事に終了した。池小学校は今年度5名の入学生で、うち男1名、女4名であった。いいなと思ったのが、チーム担任制という取り組みを始めたそうなのだが、この5名の入学生に対して、1人の先生が国語だったら、その国語の先生はこの子たちが3年生になるまでずっと関わるから、その子に対する理解度とか、コミュニケーションも取れるし、知っている顔が常にある、見える状態にある。そういう取り組みは、少ない人数だからこそできるかもしれないと思い、すごくいいと思った。

委員：門野中学校、富戸小学校の入学式に出席させていただいた。小学校の卒業式だとカラフルな感じでそれもよかったが、中学校の入学式だと制服なので、またイメージが全然違っていいと思った。富戸小学校の入学式は、卒業生は20名くらいいたそうだが、入学生は9名であった。名簿を見ただけでは、男女

の比率はわからなかったが、実際入ってきたら、男1名、女8名であった。来賓も今までコロナでだいぶ抑えられていたのが、今回は27人と、大勢で迎えられたのは良かったと思った。

高橋教育長：欠席の委員からもメッセージを伺っているので代読するが、委員は、南中学校と八幡野小学校に出席されたということで、今は児童生徒数が本当に少ないことを実感したということと、教室を見て回ったところ空き教室が非常に多い、委員は南中学校の出身なので、昔とこんなに違うのかと思ったという、感想をいただいた。

高橋教育長：それでは、議題に入る。始めに、議決事項、教議第1号「教育財産の取得について」を議題とする。

（山下生涯学習課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

高橋教育長：警察署の前の土地について、まだ建物が建っていると思うが、その建物は壊してから購入ということによろしいか。

山下生涯学習課長：所有者には、建物を解体した後での売買というところでも承いただいている。

委員：購入すると、通路及び駐車場として活用ということによろしいか。

山下生涯学習課長：今度買うところの土地は青い家が建っていて、市道とレベルが同じぐらいの土地である。今のままでは、市道が坂になっており、車を入れるには、削る必要があるが、当該地を買うことによって、そういう作業をしなくて済むようになり、土地の形も長方形になるので、入り口もスムーズに入れるようになるとともに、駐車場の用途として活用を見込んでいます。

高橋教育長：それでは、この件について確認する。教議第1号「教育財産の取得について」は原案どおり承認してよろしいか。

(異議なし)

高橋教育長：委員の皆様から承認が得られたので、教議第 1 号については原案どおり決定した。次に、議決事項、教選第 1 号「伊東市公民館運営審議会委員兼社会教育委員の委嘱について」を議題とする。

(山下生涯学習課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：それでは、この件について確認する。教選第 1 号「伊東市公民館運営審議会委員兼社会教育委員の委嘱について」は、原案どおり承認してよろしいか。

(異議なし)

高橋教育長：委員の皆様から承認が得られたので、教選第 1 号については原案どおり決定した。以上で議決事項を終了する。次に、報告事項に入る。教報第 1 号「令和 6 年度教育指導課指導の重点について」を議題とする。

(森田教育指導課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：私も小学校に通っている子供がいるが、連絡事項のペーパーレス化を図っているようで、アプリを使ってメールのような形で届いてそこに添付のファイルがついてくるということが多くなったが、問題点の一つに見にくさというところがあって、それぞれの家庭によると思うが、パソコンの画面で見るといけば、タブレットや、携帯の画面で見ると思う。それだと、添付されている書類の、全体が見えないので、どうしても見落としが出てくるようなところがある。ペーパーレス化のメリットとデメリットがあるということを保護者の方から聞くことがある。見やすさという意味で、情報量が多いものにつ

いては、選択で希望者は家に持ち帰りも可能だったり、いろいろな形で対応していると思うが、順位づけのようなことをして、このパターンは紙で出すとか、これだったら、データで出すというそのあたりのすみ分けがあるといいと思う。あと、人として備えたい力の所に自己肯定感とありますが、とても重要なことだと思う。やはり社会に出てからこの自己肯定感の問題で、なかなか仕事に対応していくのが、難しいという方がいるという話も聞きますので、具体的に自己肯定感の向上に向けて、子どもたち、また先生方、保護者も含め、どんなことをして自己肯定感というものが育まれていくのかということが、具体的な形で提示されていくといいと思う。他に、安全上の問題であるが、新学期が始まり子どもたちが通学している中で、保護者に聞いた話だが、玖須美のナガヤのちょうど警察署から下ったところの交差点の信号がなくなった。あの場所は車の交通量が多いし、私もよく通るのだが、野間自由幼稚園の方から出てきた時に見通しが悪いし、ミラーがないので前に出た時にずっと車が通っていることもある。子どもたちの通学路でもあるので、あの交差点は信号がないとちょっと心配だという話を聞いており、私も実際そう思います。いろいろな事情で信号機がなくなったりすることがあるかと思うが、ミラーの設置だけでも、だいぶリスクが軽減されることもあるかと思うので、他の場所も含めて、今一度、通学路の整備や、安全確認というところがなされるとありがたいと思う。

高橋教育長：教育指導課長と、次長兼教育総務課長で答えさせていただく。ICTと、自己肯定感について教育指導課長にお願いします。

森田教育指導課長：お便り等のペーパーレスについては、今問題になっているのが、紙であると親御さんの手元に届かないということがある。伝えたいことが伝わらないといったようなことが、メールだと確実に届くというところの良さが一つにある。もちろん紙の良さもあるが、それを踏まえた上で、小学校の

場合は去年学校評価のアンケートの中にその項目を入れて、家庭からの意見をいただいた。そうするとペーパーレスはいいし、メールで来ることは便利だけど、やはり手放しで喜ぶ意見ばかりではなかった。紙でも欲しいという意見もあった。今後も、家庭の声を聞きながら改善していく方針であると認識している。自己肯定感については、本当に大事なところであり、子供の心に育みたいところだということは、どこの学校でも同じように考えている。アプローチの仕方としては、道徳のように教科的に思いやりであるとか、協力であるとか、国際親善とかそういうものを学ぶ場面と、教科の中で、問題解決・課題解決的に、自分が疑問に思ったことを、自分が解決してわかった喜びを得るというような体験を丁寧に繰り返し、自分の学びの達成感を得るということ、それから、学校全体としては人権感覚というものが、校内にいたるところにそれが行き届いている、丁寧な言葉遣いとか、明るい挨拶とか、友達同士の関わりだとかそういうところのサポートとしてはいくつものアプローチの仕方で行っている。

杉山次長兼教育総務課長：ナガヤの交差点のところ、信号がなくなったのを私も確認はしている。経緯はわからないが、近くに信号や、横断歩道があると、広い目でなるべく整理して、スマートにしていきたいようなことを、警察から聞いたことがある。ミラーがなくて見にくいということは建設課とか都市計画課も関係していることかと思うので、市の関係部署とも話しながら、また学校の方にも通学路としての意見を伺いながら、関係機関へと要望していき、何か変えられるようなところもあれば、話はしていきたいと思う。

浜野教育部長：今の信号の件だが、私は毎日そこを通るので、ある日突然信号がなくなって、怖いというのは正直同感である。本来信号がなくなることに合わせて、道路管理者が、ミラーの設置を考えるべきだと思う。あの道路が市

道なのか県道なのかわからないが、建設課にも確認をして、こちらからの意見として早急に対応をお願いしたいところである。道路が県道であれば建設課を通じて熱海土木へ継続してお願いする形で、対応したいと思う。

委員：自己肯定感という部分だが、家庭にアプローチできる部分がないかということ保護者の方が話をしてくれて、先生たちの中でもその点がすごく大事だと思っているということをおっしゃっていました。家庭にいる時間が多いと思うので、自己肯定感の向上に向け、家族の中でもこういうアプローチを試みてくださいとか、家庭側にできることがあればいいと思う。学校側からも何かできればお願いしたいと思う。

高橋教育長：安全面はやはり重要だと思うので、意見を伺い、そういう意見が保護者からもかなり来ていることは、いろいろな組織に言っていくつもりですし、改善できる場所は、スピード感を持った対応ができるかもしれませんので、また何か危険な箇所とかあったら教えていただきたい。

委員：先ほど話があった場所に限らず、学校や市としては、通学路の点検を定期的に行っているのか。

森田教育指導課長：通学路点検は1学期のうちに各校で行う。それを集約して、建設課や警察、熱海土木で、実際にその現場に行き、各校から上がってきた危険箇所を確認している。このところ通学路では痛ましい事故が起きているので、警察や熱海土木でもお金のかかることなので、すぐというわけにはいかないが、実現に向けての方向性でいつも相談はできていると思う。学校統合により児童数が増えるということで学校を挙げてお願いをして、実際に熱海土木が意識して工事してくれている。ただ、所有者が様々で、例えば「この建物の壁が危ない」と出たときにも、そこの所有者とうまくコンタクトを取れた場合には、注意喚起というかお願いのような形ではするのだが、なかなか直接的

に改善できない箇所も実は大変多くあって、なかなか改善に結びつかないケースもある。学校としてはそういうときでも、直接子どもたちにこの場所のこういうところは危ないというような指導はしているので、直接注意喚起するということはできると思う。

杉山次長兼教育総務課長：通学路の危険箇所についてはあまり回数は取れないが、警察と教育総務課と教育指導課の職員で一日かけて一緒に、確認していますし、問題点があった場合は協議していきたいと思う。

高橋教育長：通学路については危険な箇所はあると思う。これからも建設部と協力しながら、やっていかななくてはならない。また、大池小学校の学区が、多くの危険箇所があるというのは、聞いている。私は市長と一緒に歩いたりしたこともあるが、特に冬場になると大池小学校から下っていく道路が落ち葉で滑ったり、落木で非常に危険だという声がある。学校も含めて、事故のないように、やっていきたいと思っているので、また、気付いた所があったら教えていただきたい。

委員：ちょうど通学のことが出たので、スクールバスは前後に必ずスクールバスの表記をつけなければならないのだが、私の前を走っていたスクールバスが、ラッピングバスで、スクールバスのマークが全然わからなくて、子どもたちの命を預かるバスなので見直してほしい。あと大池小学区の通学路は確かに雨、風が強いと、あちこちで倒木がある。荻方面に下る方もそうだが、吉田方面に下る方も、先日倒木で、片側車線をふさいでいるようなところもあった。大池小学校は危険な箇所が多いと感じている。

杉山次長兼教育総務課長：スクールバスについては教育総務課で担当しているので、確認して東海バスの方へ連絡したいと思う。

高橋教育長：改善できるところはしていきたいと思う。

高橋教育長：以上で報告事項を終了する。次に、その他「令和6年度伊東市教育委員会の組織機構等について」を議題とする。

（**浜野教育部長**から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：新たに設置された政策推進担当課長は、具体的にどんなことをするのか。

浜野教育部長：例えば事業があったりした時に、何らかの形で専属的にやってもらうのだが、今年でいうと生涯学習課の文化財関係の計画を作成する必要があるのですが、その都度、ポイントで行っていくように考えている。

高橋教育長：教育委員会も生涯学習センターとか、多くの施設を持っていて、管理が大変だと思うときがあり、生涯学習センターで、雨漏りしているとか、学校の施設も老朽化による雨漏りをしているという意見が結構寄せられる。各課長は、現場を見に行き、予算に配慮しながら、優先順位をつけてしっかりやってはいるが、やはり施設の関係だと、細かいところも考えなければいけないこともあるので、何かしらすぐにというわけにいかず、苦労している。なんとか市民の皆さんから要望があったときに、早く対応したいとは思っているのだが、なかなかすぐにはできないことがある。今後、校長会などで話をする機会があると思うが、優先順位をつけて計画的に今年はこのやる予定で、他の案件については来年まで待ってもらおうということを進めていても、翌年になると優先すべき重大な案件が入ってきて、その案件がまた次の年に送られるという、難しい面もある。予算が本当に豊富にあれば、すぐに直せると思うのだが、限られた予算と人員の中で、各課長も一生懸命やっているとは私はよくわかっていますので、教育委員の皆さんもそういう事情だをご理解いただいて、いろいろなところから要望があると思うのだけれども、今後もしっかり対応していきたいと考えている。

高橋教育長：それでは次に「令和6年度の小中学校、幼稚園・保育園一覧表について」を議題とする。

(森田教育指導課長・杉山次長兼教育総務課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：次に「令和6年度児童・生徒・園児数について」を議題とする。

(森田教育指導課長・杉山次長兼教育総務課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：次に「第1回課長会議「未来を拓く」マネジメントディスカッションの報告」を議題とする。

(各課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：不登校の児童のことで、教育長が園長会、それから校長会で挨拶したときに、3例ぐらいの子供が不登校だったのが登校できるようになったという話があったが、どのような理由で不登校だったのか、そしてどのように登校できるようになったのか伺いたい。

高橋教育長：各学校から細かく不登校の子供にどのように接して、対応しているか報告書があがってきて、不登校の子には不登校になった原因が一つではないことがあり、本当に複雑に様々なことが絡み合って不登校になっていて、子供の幼児期のこと、家庭の今の状況のこと、原因がわかればそれを取り除けば登校できるようになるのだが、とにかく教員が寄り添って、居場所を作っていくというか、話を聞いたり認めたりということが積み重なっていくことによって、不登校が解消されていくのではと感じている。諦めず、子どもたちと接し

て、前向きに一緒にやっという気持ちがあれば、きっと成果が出ると思っていて、行政的な視点だと、人員を増やすとかしていかなければならないと思うのだが、基本はやっぱり人と人との対応で、その先生との信頼関係が結ばれたりすることができれば、少しずつ前進してくると思っている。

森田教育指導課長：不登校になってしまう理由も様々で、出てこられるようになる理由も様々で、でもまずは、休みに入ってしまったばかりのときにほっとくことなく、子供や保護者が見てもらっていると感じることが大事なので、そこは教育指導課としては、担任が1人で抱えないで、他の教員と連携しながら対応していくというようなマニュアルを示している。それを学校でどのように実際にやっているかという、やはり教諭も「先生が連絡くれた」というように反応してくれるとちょっと励まされるのだが、子供が不登校になったことでそもそも担任は申し訳ないという気持ちでいっぱいになっている中で、やはり学校に原因があるとか、もう関わらないでという感じでされてしまうと、なかなか次の一步をためらってしまう。それで拗れてしまったり、長引いたりということもあって、ケースバイケースで難しい。でも教育長からも話があったように、何がきっかけで出てくるかわからないので、そのためにはやはり丁寧に寄り添い続けるしかないというところもある。今は家庭の事情で、寄り添えない親御さんもいるので、学校だけの対応ではもう立ち行かないということは感じている。ソーシャルワーカーや、カウンセラーとかそういう方に相談をしながら、市長も様々な立場の人の関わりが重要になってきていることは認識されており、そういう連携がしやすいよう教育委員会の体制を整えていかなければならない。

委員：新卒で採用された職員が退職されるなど続いていたが、今年度は勤務体制を変更して、ずいぶん負担が少なくなったということを伺って、課長を中心

にいろいろな工夫をして、効果が出始めているのではないかと思う。これからも働きやすくて、長く伊東市の教育に携わっていただけるようになっていけばいいと思う。良い方向に進んで、よかったと思う。

委員：教育総務課の資料の中で、実際に特別教室の空調整備ができるのは、この夏には難しいか。

杉山次長兼教育総務課長：かなり厳しいところだと思っている。学校ごとによって必要な数も変わってくるので、そこは難しいと思う。

委員：予算の問題ではなくて、設計上の都合ということか。

杉山次長兼教育総務課長：時間的にも物理的にも不可能である。年度内に行いたいと考えており、施工者が決まってしまうと、工期自体は1校に半年とかかかるものではないと聞いている。今、電気・ガス、どちらが良いかというところも含めながら検討していくと、工期自体は年度内で行えるかというところである。

高橋教育長：特別教室にエアコンを入れるというのが、4億ぐらいかかる。本市は市長を含め、教育に対し非常に理解をしていただいて、他の市町と比べてかなり進んでいると思う。他の市町で、特別教室までエアコンを設置しているところはあまりないのではないかと思うので、教育委員会と市長部局と連携しながらやっていきたいと思っている。

委員：今のエアコンのことなのだが、例えば、夏の暑い時期にその特別教室を使う授業とそうではない科目があると思うのだが、暑い時期に、エアコンがある教室を使用し、逆にエアコンがなくても過ごせる時期に、そういう教室を使用するようなカリキュラムの組み替えみたいなことまではしないのか。やはり体調管理は大切なので、設備的な部分の対応もそうだが、そのカリキュラムの順番を変えたりということも考えられるのではないか。

森田教育指導課長：例えば授業をする特別教室でいうと、音楽室、理科室、家庭科室、図工室、美術室などが主だと思うのだが、家庭科や美術の授業については、暑い時期には、教室で済む授業にすることはしている。音楽のように音の出るものはやはり音楽室に行きたいけれど、あまりにも暑いときには教室でやることにして、大きな音は出さない内容に切り替えるとか、学校で工夫がされていると思う。小学校はまだそういう融通も効くのだが、中学は理科の担当の先生はずっと理科室にいるわけなので、できるだけ涼しい部屋を探し移動しながら対応している。

高橋教育長：中体連も野球の試合は、今年度から、夜間にナイターとして計画している。子供にとって熱中症は、命に関わるようなことなので、慎重に、学校とも連携しながら、絶対事故のないようにやっていきたいと思う。

高橋教育長：その他、意見・質問はあるか。

委員：週末からゴールデンウィークに入るが、ゴールデンウィークが明けた時に学校に行きづらくなってしまう児童生徒が、また増えなければいいと思っている。小学校はこれから運動会の練習も始まってくると思う。休みが長く、暑くなり始めて、心と体のバランスがうまく保てない子が出てくると思うので、不登校のことについてもそうだが、今理由のわからない不登校の子が、多くなってきていて、そういう子が増えてこないように何とか防げたらいいと思っている。家庭での子供との関わり方はすごく大事だと思うので、この連休中に家族で過ごせることがいっぱいあるといいと思う。連休明けこそが心配だと感じている。

委員：先日、伊東小学校のPTAの総会があり、だいぶ組織としては整え始めていると思うのだが、組織が変わっていろいろな規約が進んでいきますが、その規約に対して「これはどうなのですか」という意見があったときに、「皆さ

らんどう思いますか」とその場で多数決を取って、その場にいた人たちに意見を聞いたりしながら、結局変えない形にはなったようだが、総会の中で出た意見がその場にいた人の意見で、規約が変わっていくという進め方は少し心配で、事前に議論が出てそれを本部だったり、ある程度意見集約した上で判断していくとか、PTAという組織の体質上いろいろ難しさはあると思うのだが、総会に出たときに、資料の件と変更点など大きなことを決定する際の決め方ということが、この進め方でいいのだろうかというところが、参加している保護者が感じたということをやっていた。

高橋教育長：学校とも連携しながら、また意見がありましたら、教育指導課でもいいので、ぜひ伝えていただけたらと思う。その声をやはりきちんと受け止めていきたいと思っている。今の意見についてはしっかりと、学校の方に伝えていきたいと思う。

高橋教育長：次に「各課報告について」を議題とする。

山下生涯学習課長：新図書館の再設計に向けた説明会当日は、従来図書館の計画の概要、アンケートの結果を含め、従来計画との比較となるリサイズの考え方を生涯学習課から説明し、従来計画とリサイズ案を配置、比較した図面については、設計事業者が参加者に説明した。その時の参加人数であるが、4月20日午前は八幡野コミュニティセンターで26人、午後は健康福祉センターで37人、4月21日午前は宇佐美コミュニティセンターで30人、2日間で合計93人の方が説明会に参加した。参加した方からは、多世代が利用しやすい図書館は必要不可欠、高齢者が利用しやすいように、バリアフリーは必須、縮小後も学びや活動の部屋を維持してほしい、将来のためにも10代からの意見を尊重して建設してほしい、蔵書の充実や、郷土資料の充実を求める、3階キッズスペースの配置や、子どもたちが安全に利用できるための検討、駅から距

離があるため循環バスの検討など、それぞれの立場から新図書館に向けた意見や思いをいただいた。また、参加した高校生からは、市民が集まる場所がない、子育て世代が集える場所を作って需要を促進してほしい、家庭学習室も含め、多くの機能が詰まっているので、建設されれば多くの方が利用すると思うので、現状から変更せず、中途半端にならないよう建設してほしいなど、早期の新図書館建設を求める意見をいただいた。さらには、市街地以外での図書受け取りの検討や、郷土資料の整備に関する意見、伊東市全体における図書館政策に関する要望などもいただいた。次回の入札が適切に執行されるよう求めるご意見も寄せられた。このような意見をいただいて、今後、生涯学習課としては、再設計を建設業者と進めていく、このように考えている。

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：リサイズ案だと駐車場が2階部分はだいぶ少なくなり、1階部分も若干少なくなったと思うのだが、駐車場は車は91台か。

山下生涯学習課長：1階部分の駐車場については、従来もリサイズ後も91台で変わりはない。2階の駐車場については、その部分をテラスという形で外に出て本を読んだりできるスペースとして新たに設計をし直すというような案で今は考えている。

委員：車の台数の確保は大事だと思うので、駐輪場がこの計画だと、わからなかったのだが、そのあたりはどのようになるのか。

山下生涯学習課長：リサイズ案についてはまだ案ということで、ここに駐輪場は記載していない。ただ、駐輪場は設ける予定であり、規模としては従来計画と同じぐらいの台数を確保できるような駐輪場を設計する予定でいる。

委員：停められる場所を作らないと周囲に停めてしまうことにもなりかねないと思うので、リサイズ案のときに車以外の駐輪場整備についても検討いただけ

ればと思う。

高橋教育長：教育委員と市長との懇談が来月あるので、図書館については、何か意見があったり、資料を読んで気になるところがあれば、市長と直接話をさせていただくとともに、生涯学習課長にも気軽に質問していただけたらと思う。

委員：以前、部活動は外部に少しずつ負担分散していくような話が出ていたかと思うのだが、今年度の状況というのは。

森田教育指導課長：検討委員会を教育指導課で立ち上げていて、進めているところである。本年度の当初は、検討委員会の方から、種目によって実態が全く違うものなので、それぞれの競技の中でどのようなことができるかという見通し案のようなものが上がってきて、それをまた検討委員会の中で検討するというようなところで考えている。現在、南中学校で外部指導員が入っているが、そちらも、様々な機関に協力していただいて、お願いできる方がいれば、徐々に増やしていきたいと思っている。

委員：先生方にも教育の方に時間を割いていただくという意味で、結構大きなウエイトを占める部分だと思うので、特に不登校の子どもたちの対応も、放課後とかがどうしてもメインになってくるので、ぜひそこも進めていただきたい。

森田教育指導課長：中学校の制服、標準服については、校長会を中心に検討委員会が組織されている。教職員や児童生徒、保護者へのアンケートも実施がされている。社会の変化とか、機能性、それからリサイクルをどのようにしていくか、あるいは性差による、女子がスラックスを選択できるとか、要望事項として多く挙がっていて、それを念頭に協議が進められ、そのマスターメーカーやデザインが決定した。令和7年度に新標準服ということで、市内一斉に導入となっている。

杉山次長兼教育総務課長：先ほど話のあったスクールバスについて、今年の申

込者は281人、昨年が312人であったので、30人程度減っており、伊東小の全児童が498人なので大体56.4%という状況である。今年度4月にとった各バス停の乗車率統計では、競輪場は、早便が90.2%、遅便が59.3%、西小は、早便が74.39%、遅便が60.63%、伊東駅は、早便が80%で、遅便が70%となっており、遅便になると乗車率が落ちるという傾向にある。昨年7月にアンケートを実施しているが、今年も同じようにアンケートを実施し、利用動向の把握に努めていきたいと思っている。

高橋教育長：ただいまの説明について意見・質問はあるか。

委員：新しい制服を、今から変えられないとは思いますが、ポロシャツは、ブルーとなっているが、ホワイトにしてもらえれば、洗い替えが助かり、気軽に手に入るという意見が保護者からあった。

森田教育指導課長：白にするか青にするか、そこについては、協議がされた上だと思う。

高橋教育長：どういう経緯でその色になったのかはPTAの方もいて、いろいろ意見を集約した中で決定したことだと思うので、今後どういう形になるかわからないが、今のような意見があったことは伝えるようにする。

高橋教育長：今後の日程について確認する。

事務局：5月の定例会については、5月24日（金曜日）午後2時30分を予定している。その前に市長との懇談会の時間がとれたので、市長との懇談会を午後1時30分から、市役所7階市長公室で行いたいと思う。6月の定例会については、6月27日（木曜日）を予定とする。

高橋教育長：以上で伊東市教育委員会4月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長 高橋 雄幸

委員 遠山 泰範

書記 藤原 真紀